

進路指導室から 第395号

はじめに

10月8日(土)の中国新聞デジタルの記事に、牛田中学校の3年生の生徒さんと元広島東洋カープ投手の黒田博樹さんとの出会いと触れ合いについて掲載されていました。その生徒さんは、普段から登下校中に1人で通学路の清掃活動を行っていたところ、ある日通りかかった黒田さんから「拾います」と声をかけられたそうです。そして、一緒にごみを拾ってくれたとのこと。生徒さんは別れ際に、使いかけのノートに黒田さんからサインをしてもらいましたが、後日、黒田さんの関係者から改めてサイン色紙とともにサインボールが学校が届けられたそうです。生徒さんが、そもそも清掃活動を始めたのは半年前で、川や海に流れたごみを魚などが飲み込んで死んでしまうことをテレビで知ったことがきっかけです。そして、「自分にできることもある」と日々、たばこの吸い殻やレジ袋、ペットボトルなどを拾い、学校や自宅で捨てているそうです。生徒さんにとって、毎日頑張ってきたことが認められ嬉しく思うとともに大きな自信になったのではないのでしょうか。

「令和5年度大学入学共通テストの出願状況」について

10月6日(木)に、大学入試センターは、令和5年度大学入学共通テストの受付最終日午後5時現在における出願状況を公表しました。それによると、出願総数は47万9,348人です。前年度同時期の出願総数より2万2,633人減となっています。内訳は、高等学校等を通して出願する高等学校等卒業見込者が41万5,713人、個人で直接出願する高等学校卒業業者等が6万3,635人です。前年度の受付最終日午後5時現在の出願状況と比べると、高等学校等卒業見込者が1万7,778人減、高等学校卒業業者等が4,855人減で、現役生、既卒者ともに減少しています。なお、令和4年度大学入学共通テストの確定志願者数は53万367人でした。出願は10月6日(木)の消印まで受け付けることとなっています。

「大学入学者選抜における好事例集」について

現在、進められている大学入試改革の狙いは、高校での学びと、大学入試、大学入学後の教育を一連のものとして改革する「高大接続」を図るためです。予測不可能な時代に人生を切り拓く力を育てるには、知識や技能を覚えるだけでなく、思考力や判断力、表現力につなげて課題を解決し、さまざまな人と協働する力が必要になります。2020年1月から約半年間、高大接続や大学入試改革の在り方を議論した専門家会議の提言は、他大学の模範となる先導的な入試を実施する大学を評価するよう求めました。そこで文部科学省は、今年8月に「大学入学者選抜における好事例集」を公表しました。ここでは、18の好事例のうちそのいくつかを紹介します。

北海道大学「総合型選抜」
— 高校による「コンピテンシー評価」結果を活用した総合型選抜入試 —

実施区分: Ⅰ 高校との連携をはじめとする高大接続改革の推進
参照: 北海道大学 総合型選抜
<https://www.hokudai.ac.jp/admission/faculty/ao/>

令和3年度入学者選抜概要

選抜区分: 総合型選抜
対象学部: 医学部(医学科)、水産学部
募集人員: 25人(学部等全体の約9%)
入学定数: 15人(志願倍率2.4倍)

【選抜方法】

- 第1次選考: 調査書、コンピテンシー評価(高校教員による多段階評価)等により選考を行う。
- 第2次選考: 第1次選考に合格した者に対して、面接を行う(医学部医学科では合わせて課題論文を課す)。ただし、令和3年度大学入学共通テストで受験を要する教科・科目の得点が、条件を満たさなければ最終合格の対象とならない。

導入に至る背景・課題等

- 急速に変化する社会の中で、今世の中に存在しない新しい方法論や考え方を生み出す力や、さらに新たに生まれる課題を見出し、解決する力を持つ人材が強く求められている。
- 基礎的な学力や技能、思考と判断力に加え、主体的な行動を起こす力や新しい物事にチャレンジしていく強い意欲が極めて重要。
- 令和2年度入試から、高校によるコンピテンシー評価の一部の募集単位(医学部医学科、水産学部)で先行実施。
- 令和4年度入試から総合型選抜の選考方法や募集人員を大幅に変更し、新たな総合型選抜「フロンティア入試」を実施。

アドミッション・ポリシー等との関係

- コンピテンシー評価の評価の観点、評価の領域、ルーブリックは、各募集単位のアドミッション・ポリシーに沿って本学が設定。
- 各募集単位が求める能力を、日常の高校生活を一番よく知っている高校教員がコンピテンシー評価し、選考に使用。

制度設計のポイント

- 大学や社会での新しい価値の創造を目標。新しい時代を生き抜く意義と、本学で学びたいという強い意志を持つ学生を募集。
- 高校教員が評価することにより、調査書からは読み取れない、本学の学部・学科等が求める能力や資質等について、選考に活用。
- 高校における特別な実績や活動ではなく、多様な活動の中でどのような行動をとっていたのか、どのような成長があったのかに重点。
- 高校から提出された各種評価資料を確認し、妥当性が認められない場合は、評価点を修正。
- コンピテンシー評価は、一般選抜に比べて高校側に評価の負担がかかることから、継続して評価者用マニュアルの改善を図っていく予定。

実施体制

- コンピテンシー評価実施のため、書類選考や筆記試験、面接等を実施する募集単位とは別に、以降に示す業務を主に行うこととして、アドミッションセンターにアドミッションオフィサー2名を配置。

成果の検証

- 先行実施している医学部医学科及び水産学部では選抜調査サンプル数としては少ないため、令和4年度入学者から選抜調査を実施する予定。

好事例選定委員会コメント

総合型選抜の1つの評価方法を示す。
高校での日常的な学習を丁寧に評価し、大学教育へと繋げる意欲的な取り組み。
評価基準であるルーブリックは高校向けに公開されており、高大接続の透明化を目指しているが、より一層の情報公開が望まれる。
今後、入学者に求める能力を実際に測定できていることを示す検証が行われることを期待する。

大学の募集	評価項目	教員1	教員2	教員3	教員4
医学部 医学科	基礎的な学力	○	○	○	○
	基礎的な技能	○	○	○	○
	思考と判断力	○	○	○	○
	主体的な行動	○	○	○	○
	新しい物事にチャレンジする力	○	○	○	○
	多様な活動の中で成長する力	○	○	○	○
	課題を見出し解決する力	○	○	○	○
	基礎的な学力・技能	○	○	○	○
	思考と判断力	○	○	○	○
	主体的な行動	○	○	○	○
水産学部	基礎的な学力	○	○	○	○
	基礎的な技能	○	○	○	○
	思考と判断力	○	○	○	○
	主体的な行動	○	○	○	○
	新しい物事にチャレンジする力	○	○	○	○
	多様な活動の中で成長する力	○	○	○	○
	課題を見出し解決する力	○	○	○	○
	基礎的な学力・技能	○	○	○	○
	思考と判断力	○	○	○	○
	主体的な行動	○	○	○	○

○印部分は各々の段階程度のルーブリック評価をWEBシステムを通じて高校から提供を受ける。

京都工芸繊維大学「ダビンチ入試」

～選考と入学前教育を通じて高大トランジションの達成を目指す入試～

選考区分：A 総合的な英語力の評価・育成

I 思考力・判断力・表現力の評価・育成

参照：京都工芸繊維大学「ダビンチ入試」
https://www.kit.ac.jp/aa/

令和3年度入学選抜概要

選抜区分：総合型選抜
対象学部：工学部、工業科学部
募集人員：80人（学部全体の約14%）
入学者数：62人（志願倍率5.3倍）
●一般プログラム（一般、グローバル）、地域創生 Tech Program（一般、地域、社会人）の2つの教育プログラムと6つの課程。
【選抜方法】

●第1次選考：出願書類、講義・レポート作成
このほか、一般プログラム【一般】は課題展示・レポート作成、一般プログラム【グローバル】は英語スピーキング・ライティング、地域創生 Tech Programは地域課題レポート
●最終選考：課程ごとに、面接、口頭試験、講義・レポート作成、課題展示、グループディスカッション等のスクリーニングより選考



第1次選考と最終選考の最終選考で合否を判定

●従来のペーパー形式の入試＝学力のみによる選抜ではなく、必要な基礎学力を持ち、21世紀の科学技術革新の基礎を担う意欲のある者や、チャレンジ精神旺盛で行動力のある者を選抜するために、平成14年度よりAO入試を導入。
●平成30年度からは高大トランジションの達成を目指す入学前教育（ダビンチ・カレッジ・ディベロップメント）の内容に変更。同時に、グローバル化の進展にあわせて、大学独自で開発したCBTシステムを用いた英語スピーキングテストを導入。一般プログラムの募集区分（グローバル）を新設。

アドミッション・ポリシー等との関係

●本学では、21世紀の産業、社会、文化に貢献できる国際的な理工系専門技術者（TECH LEADER）を養成することを目的とし、その目的を達成するためのアドミッション・ポリシーとカリキュラム・ポリシーを制定。
●卒業生が有すべき能力として、「専門性」、「リーダーシップ」、「外国語運用能力」、「文化的アイデンティティ」の4つを「工芸コンピテンシー」として掲げ、工芸コンピテンシーに繋がる受験生の多様な学力、レディネス、ポテンシャルを評価。

制度設計のポイント

ダビンチ入試は、選考と入学前教育を通じて、高校生から大学生になる、**高大トランジションの達成**を目指し設計している。
●出願資料で自己発見と目標をプランニングし、進学意欲を高める。
●選考では従来の学力検査や大学入学共通テストを課さず、**大学での教育現場を再現して、大学での学習進捗が可視化**となる評価を実施。
●第1次選考では、高校までの基礎学力に新たな知識を講義で学び、その理解と活用する力を論理性、表現力等を評価。最終選考では、より専門分野の領域において様々な教育活動での理解力や洞察力、協調性や依拠性等を評価。
●合格者を対象に、高校から学びたい大学進学への構え（レディネス）が確認されるよう、リメディアル（※）だけではなく、**大学教育を体験する入学前教育を実施**。
内容は、「科学探査化学」（大学独自のメディアル連携添削教材）、「大学研究の基本的な考え方と方法を学ぶ「理工学基礎講座」や、PBLによる協働性と問題発見→解決→発表のスキル習得を学ぶ「グループワーク実践講座」、グローバルでの活動を支える「英語ワーキング」や「国際交流力」等がある。
●入学後は、入学前教育を活かし、専門課程での基礎となる専門力を修得し、**外国語運用能力、TECH LEADERとしてのリーダーシップ及び文化的アイデンティティ**を育むことができるよう構成された教育プログラムを実施。
※リメディアル：大学教育を受ける前提となる基礎的な知識等についての教育から、補修教育と呼ばれる。

実施体制

●出題、点検、採点及び当日の講義実施、試験監督に、第1次選考で延べ109人、最終選考で122人の教員が担当。
●英語スピーキングテストについては、英語担当教員を中心に、課題作成5人、点検担当者2人、採点担当者7人、試験監督者4人の体制で実施。
●CBT方式の英語スピーキングテストは、PC等設備が限られ、また公正な試験のために受験生同士の間隔を確保しなければならず、一度の受験人数が限られるなどの課題がある。

成果の検証

ダビンチ入試で入学した学生は、一般選抜で入学した学生と比べ、次のような傾向がみられることが分かった。
●試験中に新しい考え方を身につけられ、新鮮な経験ができたという**通常の一般選抜との違い**に学習意欲という面で大学ではこのように面白く学ぶことが**向学心が醸成**された様子であること。
●**自立的学習姿勢**があり、**調査研究手法**（協働的問題解決・表現技法・プレゼンテーション）の経験値が高いこと。
●**目標に向かって交流も求め積極的に学習**したという**主体的学習態度**を持つ。単位取得が難しくても興味ある講義の受講を認めていること。

好事例選定委員会委員コメント

●志望理由書を重視する**一次選考から、高志分野の講義を聞いてレポートをまとめるなど評価**できる。また、CBTについては、**独自の開発であり先導的**である。
●CBT方式による英語スピーキングテストを行うなど、**英語4技能を総合的に評価する選抜**を行っており、大変意欲的な入試制度である。
●一方、CBT導入はかなり難易度が高いため、他大学では容易に導入できない可能性も懸念される。
●**講義を受けてレポートを書くなど思考力・判断力・表現力を測る内容**もある。
●**入学前教育も大数丁寧**に取り組んでいる。
●この方式で入学した学生の今後の進路なども行っていたきたい。

国立六大学連携コンソーシアム「ペーパーインタビュー」

～資質や特性、能力等の評価を画面で行う新たな筆記試験～ ※熊本大学で導入

選考区分：B 高校との連携をはじめとする高大接続改革の推進

参照：熊本大学「入試案内」
https://www.kumamoto-u.ac.jp/nyuushih/masjid=5017947d0c531ac540467b2c2d53504

令和3年度入学選抜概要

選抜区分：総合型選抜（グローバルリーダーコース入試）
対象学部：文学部、法学部、理学部、工学部
募集人員：50人（学部全体の約5%）
入学者数：44人（志願倍率約1.8倍）

●国立六大学連携コンソーシアム（千葉大学、新潟大学、金沢大学、岡山大学、長崎大学及び熊本大学で構成。平成25年に設立）の入試専門部会において、「**多面的・総合的評価のためのペーパーインタビュー**」（口頭のやり取りで得た情報を画面に書かせ、従来の面接に代わる資質や特性、能力等の評価を画面で行う新たな筆記試験）を開発。
●熊本大学では、全国に先駆けて、総合型選抜のグローバルリーダーコース入試を導入。
●試験当日は**60分の筆記試験**を実施し、統一された**評価基準や考え**方に基づき、学部等の教員から選出された評価者が評価。
●高校で受験者が経験したことに対する「主体性等の多面的評価」を行うもので、**特に高校在学中に培ったリーダーとしての経験的資質等を評価**。

導入に至る背景・課題等

●国立六大学連携コンソーシアム入試専門部会で開発された「多面的・総合的評価」のための新たな筆記試験であるペーパーインタビューは、**各大学が高校生を対象とした事前の試行を経て開発**され、**評価の信頼性を確かめ**て導入。
●従来の面接よりグループワークが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により実施困難となり、それに代わる選抜方法として導入。

アドミッション・ポリシー等との関係

●総合型選抜（グローバルリーダーコース入試）を実施している文学部、法学部、理学部及び工学部において、カリキュラム・ポリシー（CP）にグローバルリーダーに必要な資質・能力の修得に関して定め、アドミッション・ポリシー（AP）に**グローバルリーダーに関する能力**を定めている。
●これに基づき、入学選抜において、ペーパーインタビューを実施し、**グローバルリーダーに関する資質・能力を審査**。

制度設計のポイント

●ペーパーインタビューにより**多面的・総合的評価**（学効果的）を行うことで、一般選抜で入学する学生と比較して、より高いリーダーシップと意欲を持つ学生の入学が期待。
●**統一の評価基準を用いて画面により実施**するため、通常の面接・グループワーク等と比較して、**採点の公平性等の向上**が期待。
●画面により実施するため、通常の面接・グループワーク等と比較して、**面接を得意としない受験者であっても、資質・特性及び能力等の評価をより効果的に実施可能**。
●画面で行う面接に比べ、**教職員の従事時間及び受験者の待機時間を含めた拘束時間を短縮**できる。
●正に、質疑応答の発生や座席等の入れ替わり等も発生しないことから、**新型コロナウイルス感染症の感染下においても安全な試験実施が可能**。

実施体制

●評価（採点）者に対して共通理解をもって評価することを目的に、ペーパーインタビューの説明と評価の項目・方法・基準等の説明を行う**評価者説明会**を実施。

成果の検証

●ペーパーインタビューを導入して間もないこともあり、現状、分析・改善に資するデータが少ないうえ、総合型選抜（グローバルリーダーコース入試）での本選抜方法の有効性について、今後の追跡調査が必要。
●追跡調査の内容としては、多面的評価として審査した能力と学修成果等との関係を調査する予定。

好事例選定委員会委員コメント

●**高校の実状や大学の成績との関連などを綿密に検討した上で開発**されており、好事例となる。
●今後、入学者に求める能力を実際に測定できていることを示す検証が行われることを期待する。

熊本大学 ペーパーインタビュー問題例

※：現在、勉強やそれ以外の趣味などで指導者や教科書などの学びの枠を超えて、あるいはそれの学び以外に、自ら進んで努力していることがあります。それはどのようなことですか。具体的に教えてください。私が出す事柄がなければ、これからやってみたいと思っていることや過去に行なったことでも構いません。複数思い浮かぶものはの中から1つを選んで教えてください。どんな些細なことでも構いません。下記の①～⑥の質問に順次して解答してください。

- ①いつ頃、どのようなことか。
- ②自ら進んで努力しようとした理由は何か。
- ③具体的にやっている努力はどのようなことか。それを行うことでどのようなことを期待しているか。
- ④現在も努力を続けているか。継続の理由は何か。努力を止めている場合は、その理由を述べる。
- ⑤すでに何か結果・成果を得ているなら記述する。最終的な目標はどのようなものか（より具体的に記述する）。
- ⑥その努力を通して得たことは何か。今後、同じような状況にならざらばどのように行動するか。

受験生の意欲や資質が評価されるこうした取組は、今後拡大していくものと思われます。なお、その他の事例については、文部科学省の「大学入試情報提供サイト」に掲載されていますので、ご確認ください。

終わりに

10月7日（金）の毎日新聞に、「ズッコケ三人組」シリーズの作者で、2021年7月に亡くなった本校卒業生の児童文学作家、那須正幹さんの記事が掲載されていました。記事によると、那須さんの遺言で、全作品の著作権が文学団体に遺贈されたそうです。那須さんは生前、「戦争や原爆など過去の暗い歴史は絶対に入れまい」と話していたそうです。「ズッコケ三人組」では、子どもたちが好きなことをして、やりたいことを自由にできる世界を描きたいという思が込められています。なお、「ズッコケ三人組」の舞台・花山町は、那須さんが生まれ育った己斐の町をモデルにしているということで、西広島駅前に「ズッコケ三人組」の主人公の像があります。